



四六判
ヒトコワ都市伝説

Naokiman Show 著 丸山ゴンザレス 著
ISBN4-8013-0713-1
税込1540円

YouTubeで人気のふたりが「人間の怖さ」を深掘りする
「Naokiman Show」×「裏社会ジャーニー」

本書のテーマは、「ヒトコワ」。都市伝説系YouTuberのNaokimanShowと、危険地帯ジャーナリストの丸山ゴンザレスが、ヒトコワ=人の怖さを深掘り。都市伝説と裏社会の視点から、世界の闇に迫ります。人間を解体するビデオがコレクションされた不気味すぎる部屋、購入した島に児童を連れ込み性欲を満たす億万長者、暇つぶしで人を廃人に追い込もうとするヤクザたち……。そんな怖ろし…



四六判
なぜ『異世界もの』の主人公には男友達がいないのか?

小林奨 著
ISBN4-8013-0700-1
税込1430円

“お約束” “あるある”の背後にある人間心理に迫る！
サブカルは人間心理の縮図！

マンガやゲーム、ライトノベルなどのサブカルチャーには、様々な「あるある」や「お約束」が存在している。たとえば、「異世界もの」の男性主人公にはなぜか同性の友人がおらず、パーティーは女性ばかり。ファンタジー作品のヒロインやお姫様は何日旅をしても髪やメイクはキレイなまま。RPGゲームでパーティーに入るキャラに中高年女性はほぼおらず、殺し屋に殺害されるモブ…



四六判
現役グラドルがカラダを張って体験してきました

吉沢さりい 著
ISBN4-8013-0597-7
税込1430円

吉沢さん、ここまでやって大丈夫ですか!?

高級ソープ面接、AI婚活、膾整形、自宅オフ会…

現役グラドルが「他のグラドルが絶対に行かない場所」に行き本気で体験してきた渾身のルポルターージュ！・高級ソープ面接・AI婚活・膾整形・メンズエステ・自宅オフ会・AVのADなど業界のウラ側もちょこっとわかる、どこから読んでも退屈させない1冊！吉沢さん、ここまでやってよかったんですか…!?!…



四六判
獄中で酔う

青井硝子 著
ISBN4-8013-0594-6
税込1540円

雑草を吸ったら捕まった！

ベストセラー『雑草で酔う』の著者が綴るめくるめく獄中トリップ

軽トラで車上暮らしをしながら雑草やキノコを“吸いまくった”日常を記録しベストセラーとなった書籍『雑草で酔う』の著者・青井硝子氏が、幻覚成分を含む茶を販売したなどとして2020年3月3日「麻薬及び向精神薬取締法違反(幫助容疑)」で京都府警に逮捕された。通常、逮捕されれば落ち込むところだが、青井氏はその状況を心から楽しみ、留置場という非日常の空間でさまざまな遊び方…



四六判
常識として知っておきたい裏社会

徳役太郎 著 草下シンヤ 著
ISBN4-8013-0590-8
税込1430円

裏社会はあなたのすぐそばにある

最もわかりやすく刺激的な裏社会の教科書

「懲役太郎チャンネル」40万人&「裏社会ジャーニー」70万人YouTube登録者数110万人超えの2人が対談。現代日本では表と裏との境界が曖昧になり、犯罪の魔の手はあちこちから忍び寄っている。しかし、裏の世界の実情について、一般からうかがい知ることが困難だろう。本書では、裏社会情報の発信者として注目を集める2名による対談を行った。身を守るためにも「常識」として知って…



四六判
大麻でパクられちゃった僕

高野政所 著
ISBN4-8013-0505-2
税込1320円

ある日突然逮捕された僕・・・

0.6グラムの罪と罰は、想像以上に重かった

DJ/ラジオパーソナリティとして絶好調だった高野政所が、2015年3月、大麻取締法違反で逮捕された。取り調べ、クサイメシ、眠れない夜……。その過酷な獄中体験をユーモラスに綴った名著『前科おじさん』(スモール出版)が、大幅な加筆・修正を経た新装版として再登場!!金も仕事も失った先に見えたものとは…?…



四六判
雑草で酔う

青井硝子 著
ISBN4-8013-0410-9
税込1540円

うつ、発達障害、パワハラ、ブラック企業etc…

社会で生きづらさを感じたら合法的に草を吸いましょう

この本は、人と付き合うごとにストレスを感じていた男が、ついに社会から飛び出してしまい、車上暮らしを嗜み、人付き合いをさっぱり諦めて、雑草をタバコにするという遊びを延長して極めていった結果、なにやら独自の方向に研究が進んだ。そんなおかしな経験を記すものです。知っていますか?雑草って、巻いて吸うと面白いんですよ。便秘が治る草もあるし、気分が高揚したりま…



四六判
神秘の幻覚植物体験記

フリオ・アシタカ 著
ISBN4-8013-0390-4
税込1650円

マジックマッシュ、アヤワスカ、サンペドロ、ペヨーテ…

究極のビジョンを探す旅!

幻覚植物というと、日本では決して良いイメージはない。所持や摂取が法律で禁じられているものも多いし、大麻や覚せい剤といった“ドラッグ”と同一視されているきらいもある。だが、幻覚植物は決して快楽のために存在しているのではない。現在もシャーマニズムが息づく中南米。そこでは幻覚植物は人々に気づきと癒しをもたらす“儀式の道具”として用いられているのだ。メキ…